

9. ブロイラー農家に対する生産性向上対策

豊後大野家畜保健衛生所

○里秀樹・芦刈美穂・丸山信明・廣瀬英明

高病原性鳥インフルエンザの防疫のために行っている養鶏農家からの死亡羽数の報告徴求やインテ指導員からの出荷成績等の状況から、継続的に出荷成績が悪く生産性の低い農家を選定し、2009年4月から、各ロット単位で入雛から出荷までの間、週1回の巡回指導を行い生産性の向上対策に取り組んだので、その概要を報告する。

【巡回時の主な取組方法】

①糞便の寄生虫検査②死亡・淘汰鶏の病性鑑定(細菌、ウイルス、病理)③ペア血清を用いた鶏伝染性気管支炎ウイルス(以下IBV)と鶏ニューモウイルス(以下APV)の中和抗体価測定により、重点指導項目を検討。なお、成果については、生物学的生産性を示す生産指数(以下PS)を用いて評価した。

$PS = (\text{生存率} \times \text{出荷体重(kg)} / \text{出荷日齢} \times \text{飼料要求率}) \times 100$

【A農家の結果】 T市N町、開放鶏舎3棟、飼養羽数27,500羽規模、チャンキー

2009年4月導入分：①寄生虫検査：23日齢からコクシジウムオーシスト(以下オーシスト)を確認し、30日齢で最大 1.44×10^5 OPGまで増えたので一部の鶏舎にサルファ剤を投与。②病性鑑定：42日齢でコクシジウム(コクシ)による空回腸及び盲腸炎。③ウイルス検査：IBVとAPVの動きを確認。

出荷成績は、出荷率100.3%、出荷体重3.30kg/羽、PS306。大腸菌症の影響を受けた過去3ロットの平均PS261を大きく上回る好成績であった。

【B農家の結果】 T市N町、開放鶏舎6棟、飼養羽数13,500羽規模、チャンキー

2009年6月導入分：①寄生虫検査：21日齢時にオーシストを確認し、28日齢で最大 2.0×10^5 OPG。全鶏舎にサルファ剤を投与。②病性鑑定：入雛時から1週齢頃まで水溶性下痢が継続。42日齢を過ぎて出荷まで連日0.5%程度の死亡が続く。28日齢の淘汰鶏でコクシ寄生、48日齢の淘汰鶏で慢性腸炎と細菌性敗血症。③ウイルス検査：IBVの動きを確認。

入雛時のトラブルや肥育後半の死亡数増加により、出荷成績は出荷率96.4%、出荷体重3.18kg/羽、PS254。前回ロットのPS299より大幅に成績を下げた。

【C農家の結果】 T市N町、鶏舎数3棟、飼育羽数29,000羽規模、チャンキー

2009年8月導入分：①寄生虫検査：29日齢時にオーシストを確認したが、サルファ剤の投与は40日齢から実施。②病性鑑定：15日齢で盲腸にコクシ寄生、大腸菌症発生。17日齢で有効薬剤を投与した後、死亡数は減少。25日齢までに約3%が死亡、淘汰。

出荷成績は、出荷率97.5%、出荷体重3.27kg/羽、PS313。成績の悪かった前回ロットのPS267を大きく上回る好成績であった。

【まとめ】対象農家では、コクシによる被害が継続しており、鶏舎消毒方法の検討と併せ、コクシ対策を強化していきたい。また、IBVの動きも共通して認められるので、呼吸器症状の軽減を目的にワクチンプログラムの変更も検討中。農家毎に環境や飼養管理が異なるため、各々の状況を把握したうえで指導を実施し更なる生産性向上に努めていきたい。